

## 会 議 録

会 議 名 称	第3回 自立支援センター設置に関する検討委員会
日 時	平成16年7月8日(木) 午前10時～12時
会 場	自立支援センター渋谷寮・渋谷区千駄ヶ谷出張所
出 席 者	<p>委員 山田知子委員、柴田純一委員、高橋新一郎委員、武田富乃委員、夏目政之委員、鈴木定雄委員、内田寿子委員、都築准子委員、小林幸男委員、小林英雄委員、菊池律委員</p> <p>説明員 渋谷区福祉部保護課長、自立支援センター渋谷寮施設長、特人厚厚生部業務課主査</p> <p>事務局 保健福祉部管理課長、計画推進担当副参事、西福祉事務所長、企画課企画調整担当係長、管理課路上生活者対策担当係長、東福祉事務所保護第一係長</p> <p>関係職員 南福祉事務所長、福祉局計画課自立支援担当係長、</p>
配 布 資 料	<p>参考資料</p> <p>1 渋谷寮のしおり</p> <p>2 自立支援センター渋谷寮の設置について</p>
議 事 等 ( 要 旨 )	
《視 察》自立支援センター渋谷寮	
施設長	渋谷寮の概要説明及び施設見学
委員	就職後、雇用主側の評価はどうか。クレームなどはないか。
施設長	大きなものはない。すぐ仕事を止めてしまったと雇用主側から連絡が入ることはある。自立支援センター利用者であることをオープンにして就職した場合は、それなりに雇用主側にも理解があるので、今後受け入れてもらえないというわけではない。
委員	就労が続くように指導するのは難しいか。
施設長	転職癖がある人がいる。施設としてもできる限りの働きかけはしている。

	利用者の様子に変化が見えれば、スタッフから早めに声をかけるなどのフォローをしている。
委員	仕事への順応が難しい人が多いだろうし、人間関係をつくるのも難しいと思うがどうか。
施設長	以前と同じ仕事につけばいいが、路上生活というブランクや、社会情勢の変化もある。「ゼロからの再出発」と気持ちの切り替えが大切。
委員	地域との問題は起こっていないか。
施設長	当初、近くの小学校PTAが心配していたが、特に問題は起こっていない。利用者側も、自立に向けて目いっぱい状況。
委員	施設の1日のリズムを教えてほしい。
施設長	朝食後、朝9時ころから求職活動に出て、昼・夕の食事の時間に帰れる人は戻る。それ以外は求職活動。夕食は6時半から、入浴7時～9時、消灯10時。就業中の人の帰宅時間はまちまちだが、終電前には帰るので、宿直の職員(2名)は最後の一人が戻るまで起きている。
《議事》渋谷区千駄ヶ谷出張所 1. 渋谷寮の設置状況について	
渋谷区保護課長	自立支援センター渋谷寮の設置について説明
委員	5年間限定の施設ということで地域に受け入れられた面はあるか。
渋谷区保護課長	期間限定ということと、都と共同であるという部分で理解された面があった。また、民生委員や町会の方が設置について理解を示してくださったことも大きかった。
委員	PTAの説明会の参加人数等の状況を教えてほしい。
渋谷区保護課長	土曜日の午後3時半～7時頃まで、40名程度が参加した。何か問題がないのか不安とのことだった。既存の自立支援センターを見学してもらったことで理解していただけたと受けとめている。
委員	運営上の苦労は。
施設長	まだ1サイクル(4ヶ月)終了していないので、様子を見ているところ。求職活動は順調で、目標の就職率8割は達成しそうである。
委員	共同で居室を使っている問題はないか。
施設長	いびきがうるさいという程度の話はあるが、トラブルはない。同じ境遇ということで、むしろ助け合いの意識の方が強い。

委員	入所者が飲酒をして、施設の外に出てトラブルを起すというようなイメージがあるが、規律はどうなっているのか。
施設長	飲酒は厳禁。わかったら厳重注意し、反省がみられなければ福祉事務所と対応を相談する。門限があり、夕方からの外出は認めていない。入口のロックは事務室で管理している。飲食店に就職している人など、仕事の関係で帰宅が遅くなる人はいる。夜から朝にかけての出入りはない。入所者には、入所時に説明して同意を得ている。
委員	寮という名称だが、研修センター的な要素もあるのか。
施設長	自立支援センターの入所期間は最長4ヶ月だが、その前に緊急一時保護センターで1ヶ月間ケアを受けているので、利用者は一般の人とほとんど変わらない。メンタル的にもアップしてきて、各自自分の今後のことを考えている。
委員	2ヶ月で退所した人はいるのか。期間が4ヶ月では短いと感じることはないか。
施設長	住み込みの仕事が決まった場合は退所する。大阪は6ヶ月だそうだが、あまり長すぎてもどうかと思う。アパート入居代を貯めることを考えると、4ヶ月の期間はちょうどいいのではないか。
委員	最初の住民説明会で出た質問とは、どのようなものだったのか。
渋谷区保護課長	「どうしてこの用地が選ばれたのか」という質問が多かった。区としては、民家に隣接していない場所を探していたが、どこも周囲に民家があり、また、都有地も5年間の利用が困難だった。現在の場所は、周囲に民家もなく、隣のビルも事務所であり条件が整っていた。 近隣小学校のPTAからは、用地の再検討について要望があったが、最終的にはPTA代表も入っている「設置及び運営協議会」で理解を得た。
委員	若い職員が多いようだが、年齢的なことで問題はないのか。
施設長	施設職員は、20代、30代が中心だが、皆、こういう仕事を希望して入って来ているので、運営上の支障は生じていない。また、別の施設でも経験を積んでおり、むしろ、親子のような年齢差が広い場面もある。ただ、良いこと悪いことは、はっきりと伝えており、その熱意は利用者にも伝わっていると思う。
委員	「連絡懇談会」を設置しているが、その後の地域との関係は。杉並の検討委員会では、地域との交流ができればという話も出ているが、何かサジェスチョンがあれば聞きたい。

渋谷区保護課長	「渋谷荘連絡懇談会」の方に渋谷寮を見学していただいた。地域の人からは、「施設が出来て明るくなった。当初心配していたようなことはなかった。」という感想を聞いている。
施設長	交流は、利用者の社会復帰を考えれば必要性は感じるが、4ヵ月はあっという間である。利用者もやることが山積みで、雇用も不安定な中、精神的な余裕もない。もし、地元から声がかかれば施設職員は参加したいと思う。
委員	地元説明会にかなりの時間を要した。PTA側には、路上生活者と施設に対する誤解があった。実際に施設を見てみないとやむを得ないと思うが、開設後に「問題がなくて良かった。」の声を聞き安心している。
委員	<p>開設後、「問題がない」で話が終わってしまったのでは、開設する意義がないのではないか。路上生活者へのイメージが変わった訳ではない。</p> <p>いま中学校では、職業に関する教育を行っている。路上生活になった人が、やる気があればやり直しができるというエピソードは、中学生が仕事を考えるうえで、きっかけになるかもしれない。せっかくなので、地域に根ざした施設にできればと思う。</p> <p>施設を見学してみて、若い職員がやわらかい雰囲気をつくっていてほっとした。家族が崩壊した人もいるだろうし、暖かい場所があれば変わるのでは、という印象を受けた。</p> <p>開設後、明るい雰囲気になったのは、施設内の雰囲気の影響もあると思う。木も残っていていい感じだった。人が生活する場としての雰囲気は大切だと思う。周囲に民家があってもいいのでは、というくらいに思う。</p>
委員	利用上の禁止事項の設定などの状況を聞くと、事前のアセスメント等がしっかりしている面を感じる。違反ケースは、
施設長	違反ケースはほとんどない。例えば仕事場の歓迎会などがある場合は事前に連絡が入るので、状況により認めることもある。ただし、酔っ払うような状況までは認めない。
委員	入所者は、概しておとなしい人が多いように思う。むしろ就労後、人と上手くやっていけるかが心配である。就労後5年程度は施設からアフターケアしてデータを取っていければいいのではないか。
特人厚主査	今年度から施設にアフターケア要員を配置している。フォローしながらデータの収集もできる。渋谷寮には3名配置しており、杉並でも配置を予定している。

委員	住宅入居時や就労時の保証人問題はどうか。
施設長	就労時に保証人を求められた場合は、親族でなくても可能なので、知人や利用者同士で協力しているケースもある。住居は親族が前提となるため、これを機に連絡を取ったり、それも難しい場合は保証人協会を利用する等、ケースバイケースで対応している。
委員	不安定な状態の人が保証人になるのでは問題がある。将来的には考えていかないといけないことだろう。
委員	施設は、とても清潔だと思った。大田寮でアセスメントに従事していたが、入所するときと退所するときでは、全く顔が違う。「路上生活者」という人がいるわけではなく、そういう状態があるということだ。良い環境に置かれれば、良い状態になる。公平な対応をされれば勇気も出る。差別されると人間らしくできないし、安心もできない。とても勉強になった。
委員	とても建設的な議論ができたと思う。路上生活者への支援のあり方にまで踏み込んだ話で、私自身も感激した。 「専門的なケア体制」「地域とのつながり」「路上生活者への支援はどうあるべきか」が議論できた。路上生活者は「人は仕切り直しができる」というモデルになれるのかも。
2. 提言素案について 3. その他	
事務局	提言素案(案)については、委員長、副委員長とも相談して、次回検討委員会前に事前送付したい。 次回、検討委員会の日程等確認
	閉会